



広報せき

Seki Gocoro

2022
09

No.1739

巻頭
特集

新規就農



Seki Gocoro 09

SEKI City Community Magazine

TOPICS

マイナンバーカード申請サポート 6-7P
入園案内 8-9P
INFORMATION 12-32P
子育てカレンダー 35P

「就農」って何!?

農業を仕事にすることを「就農」といいます。
就農する方法は、大きく分けて2つ。

「個人で就農する」方法と、

「農業法人等に就職する」方法です。

個人で就農する場合、自分のやりたい農業ができませんが、初期投資が多く必要です。就職する場合は、働きながら知識を身に付けることができます。

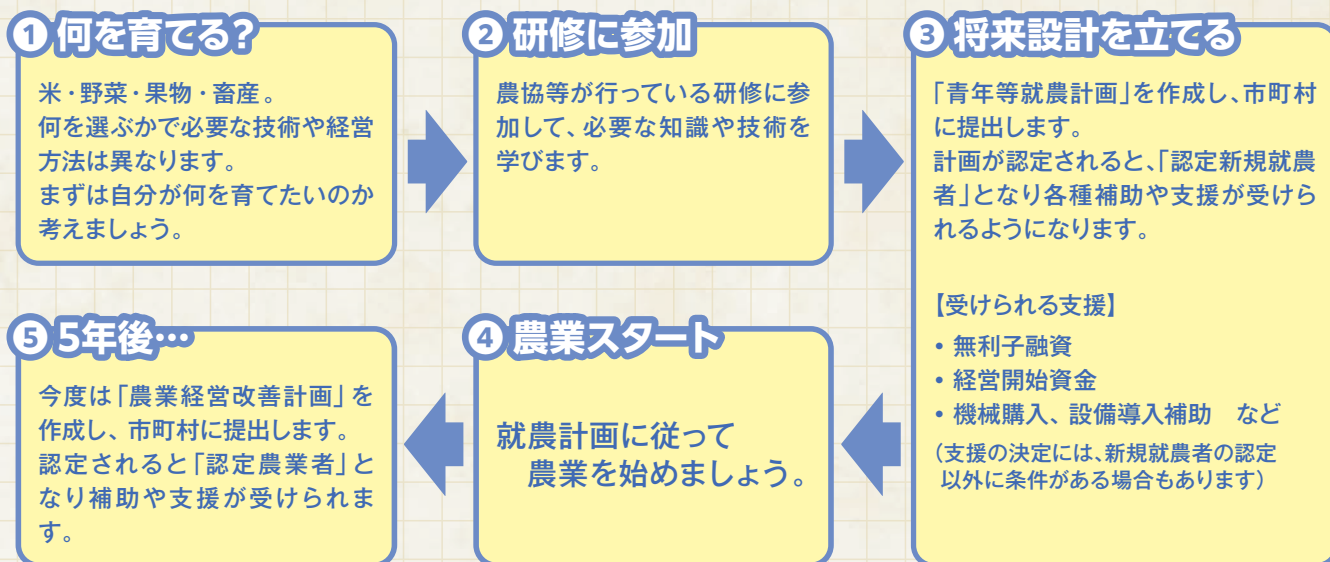
この特集では、個人で就農する場合に焦点をあて、標準的な就農までの流れを紹介します。

また、市内で新たに農業を始めた人に、そのきっかけや日々の様子について話を伺いました。



認定新規就農者制度

認定新規就農者制度とは、新たに農業を始める人が「青年等就農計画※1」という計画を作成し、それを市町村が認定して計画達成のために必要な支援を行う制度です。認定された人を「認定新規就農者※2」と言います。個人で就農する場合、この制度を活用した下図のようなルートがあります。



※1 青年等就農計画 就農開始から5年間の経営計画。何をどこで作るのか、そのために必要な技術や機械・設備、資金はどうするのか、などを詳細に記入する。

※2 認定新規就農者 認定農業者を除く新たに農業経営を営もうとする人(営農開始5年以内の人を含む)で、以下のいずれかに当てはまる人。

①18歳以上45歳未満の人 ②65歳未満で、特定の知識・技能を有する人 ③前記の者が役員の過半数を占める法人

支援制度について

認定新規就農者が受けられる支援制度の一例を紹介します。

関市農業次世代人材投資資金(就農準備資金・経営開始資金)

●対象

就農準備資金 研修中の研修生(就農時49歳以下)
経営開始資金 新規認定就農者(就農時49歳以下)

●内容

研修期間中の研修生および新たに経営を開始する人に対して資金を助成する。
最大150万円×5年間
(就農準備資金2年・経営開始資金3年)

経営発展支援事業補助金

●対象

新規認定就農者(就農時49歳以下)

●内容

就農後の経営発展のための機械・施設等の導入に係る経費を補助する(上限1,000万円)。

認定新規就農者制度で受けられる支援以外にも、様々な支援や制度があります

移住・定住支援

関市新規就農・定住促進支援事業助成金

●対象

- 以下の条件を満たす農業法人
- ・ 本社が関市に所在する
 - ・ 直近の決算書による課税売上額が5,000万円以下

●内容

- 以下の条件を満たす定住希望者に係る雇用賃金を助成する。
- ・ 平成30年4月1日以降に関市へ転入すること
 - ・ 3年以上関市に定住すること
 - ・ 雇用契約を締結する時点で、45歳以下であること

転入時の世帯人数	助成金の上限額
1人	150万円／年
2人	198万円／年
3人	246万円／年
4人以上	300万円／年



法人化支援

新規法人化組織設立支援事業補助金

●対象

平成30年4月1日以降に複数戸の農家で設立され、関市に本社がある農業法人

●内容

営農に必要な農業用機械および施設・設備の導入に要する経費の2分の1以内の額(上限500万円)。

●実施期間

令和5年3月31日まで

地域の宝磨きあげ事業

関市ほらどキウイフルーツ栽培等支援事業補助金

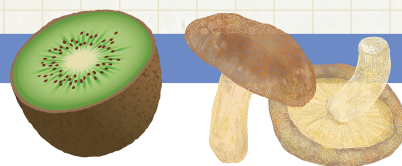
●対象

めぐみの農業協同組合ほらどキウイフルーツ生産部会に所属し、ほらどキウイフルーツ※を生産・出荷している人

※ここでいう「ほらどキウイフルーツ」とは、洞戸地域で生産され、かつ出荷されるキウイフルーツのことをいう。

●内容

ほらどキウイフルーツの栽培および出荷に係る経費の2分の1を補助する(上限75万円)。



関市原木しいたけ栽培新規後継者育成支援事業補助金

●対象

- 以下の条件を満たす人
- ・ 関市に居住の実態があると認められる人
 - ・ 補助金を申請する日の時点で、18歳から45歳までの人

●内容

武儀地域における原木しいたけの栽培および販売に関する補助金および支援金。事業の開始から3年間交付する(経費の内容ごとに上限があります)。

関市民農園

農業体験をやってみたいけれど、農地を持っていない。そんな人には農業体験ができる貸農園があります。興味がある人はぜひご利用ください。詳細は右記二次元コードをご覧ください。

農園	利用料	面積
黒屋リフレッシュ農園	一般区 4,200円/年	30㎡
	福祉区 2,800円/年	20㎡
田原リフレッシュ農園	7,200円/年	50㎡



黒屋リフレッシュ農園



田原リフレッシュ農園



支援等の決定に必要な条件は、別途お問合せください。

照会先：地域の宝磨きあげ事業 キウイフルーツ／洞戸事務所 (☎58-2111) しいたけ／武儀事務所 (☎49-2121)
その他／農林課 (☎23-7705)

かわ むら ゆう すけ
川村 雄祐さん

認定
新規就農者
4年目

就農場所：西田原



トマトハウス



収穫したトマト(写真提供:川村雄祐さん)



独立ポット耕栽培システム・コントローラー

品目	トマト
品種	王様トマト(大玉トマト) フルティカ(中玉トマト) アイコ(ミニトマト)



育てるのっていいな

川村さんのおじいさんは、キュウリを中心に育てる農家だ。幼少の頃からおじいさんの仕事の手伝いをしてきた川村さんは、当時から野菜を育てることが大好きだった。いつかは自分も農業をしようと思っていた。

「うまく育てても、育てられなくても、何かを育てるのっていいな。大変だけど楽しい」

おじいさんの教え

大学を卒業して2年。おじいさんのもとで働き、野菜作りの基礎を学んだ。その後、おじいさんの勧めで揖斐川工業のトマト実証農場「神戸ラボ」へ。そこで出会ったのが、独立ポット耕栽培システム※だ。

「雄祐はこっちの方が向いとる」

「俺もそう思う」

おじいさんとそんなやり取りがあったとか。ポット耕は、設備に多額の費用が掛かるが、ハウス内の環境を自動で制御することができる。地面に直接植える土耕に比べ管理がしやすく、収益性が高い。

今後長く農業を続けていくのであればポット耕の方がいい、というのがおじいさんの言葉だった。

YouTube

川村さんにとってひとつの転機となったのがYouTubeの存在だ。昔投稿していた動画がたまたまバズったのだ。

農業の知識なら誰にも負けない自信がある。それならと奮起し、忙しい仕事の合間を縫ってほぼ毎日動画を投稿した。すると、どんどん登録者数が伸びていった。立派な農業系ユーチューバーの誕生だ。

家庭菜園で人気の高い夏野菜を扱ったこ

と、豊富な知識を生かしたアドバイスが功を奏した。さらに投稿活動を発展させ、自分の育てた野菜だから買ってもらえるようにしたい、と次の目標に向けて意気込む。そのために現在計画しているのが、野菜の移動販売だ。

使わずに放置されている農地を使って野菜を育て、その様子をYouTubeに投稿する。そして、SNSで宣伝して販売する、というものだ。

耕作放棄地の増加や担い手の高齢化が叫ばれている現在。若い人達に農業に触れてもらういい機会にもなるのでは、と話す。

大切なこと

農業は、野菜をたくさん作っても売れなければ意味がない。仕事の半分は出荷作業だという。農家から農協が買い取って販売する仕組みもあるが、それ以外の販路は自分で営業活動をして開拓しなければならない。また朝も早い。向き不向きの大きい仕事だ。だから始める前の準備が重要になる。

大切なことは二つ。

一つは野菜選び。地域や自分に合った野菜は何か考え、見つける。

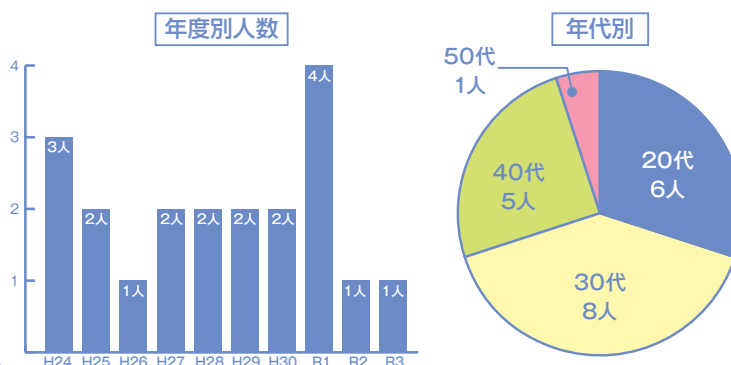
もう一つが計画。10年、20年先を見越し、収益の出る十分な規模の経営計画を立てる。「自分は60歳まで見越して考えています。これからもずっと農業を続けるつもりです」

川村さんは力強く締めくくった。

※トマトの独立ポット耕栽培システム

岐阜県で開発された技術。トマトを1株ごとに独立したポットに入れ、自動制御で養液を供給して栽培する方法。生育がコントロールしやすく、土耕に比べて収益性が高い。

関市の認定新規就農者の状況



ポットの様子。点滴チューブで一つずつ養液を供給する

まつ なが よし み 松永 佳己さん

就農場所：小瀬

認定
新規就農者
4年目



イチゴハウス



農作業道具



ナス畑

品目	イチゴ	ナス	里芋
品種	濃姫 紅ほっぺ	筑陽 ふわとろナス	円空さといも



こだわり

家庭菜園が趣味だった松永さん。子どもが喘息を患っていて遠出することが難しかった。一緒に楽しく過ごせる場所を用意したいと思い、畑を借りたのが野菜作りを始めたきっかけだった。家庭菜園を始めてすでに10年以上が経ち、キュウリ、トマト、ナス、大根など二通りの野菜は育てた。子育てが一段落し、自分も何か仕事を、と考えたとき思いついたのが農業だった。

県や農協が主催する研修に1年間通い、今から4年前に新規就農者として営農を開始した。

松永さんは昔ながらの土耕栽培にこだわる。機械を使ったポット耕の方が収益や作業のしやすさは上だ。けれど、伸び伸びと育った土の味がする土耕がやっぱり好きだという。

また、使用する農薬の量にも慎重だ。作物の免疫を高めることに注力し、農薬の量を規定値のさらに半分以上まで減らすように努めている。

基準は自分の子どもに食べさせたいからだ。

夫婦二人三脚

松永さんの後を追いかけるように、3年前からご主人も仕事を辞めて一緒に農業をしている。もともと松永さんの研修に積極的に同伴して勉強をしていたそう。

ご主人は設備担当。

所有するハウスはすべて自分たちで建てている。他の農家の人や近所の人を手伝ってくれることもある。

ご主人が加わってからは、事業も拡大し、今ではすっかり主戦力だ。けれど思わぬ弊害も。ご主人が熱中症で

倒れたときは、すべて二人で対応しなければならず、目が回りそうだった。

天敵は…

天気は農家にとって「筋縄ではいかない相手。松永さんにとっても同様だ。

「今年は暑すぎて、ナスの実りが悪い。だからイチゴも心配」

視線の先には9月に植える予定のイチゴの苗が並ぶ。イチゴは秋から春にかけて実をつける。特にクリスマス時期は一番単価が高い。狙った時期に出荷できるよう、天候をみながらハウス内の温度や日差しを調整して育てている。

しかし、松永さんにとって最大の敵はほかにあった。

それはモグラ。

作物を食べることはないが、掘った穴からネズミが侵入したり、土が掘り返されて防草シートがめくれたりする被害が発生している。今年はイチゴの苗の下をモグラが通ったことで根が傷つき、150本もの苗がダメになってしまった。

モグラがいなくなることはない。対策に頭を悩ませる日々だ。

女性と農業

農業は子育てしながらでもできる。自身の経験から、松永さんはそう話す。必要な時間を自分で調整できるからだ。さらに今は機械化も進み、重い物を持つことは少ない。むしろ細かな作業が多いという。

「みんなが思っている農業と、今の農業は全然イメージが違うと思います。始めてみると、案外ハマるかもしれません」

最近女性も農家も増えてきているそう。

関市で農業、始めませんか？

農業には、一見外からでは分からない苦労や困難がたくさんあります。しかし、いちから作物を育てる喜びは他では代えがたい体験です。「どうしたらいいかわからない」、「何を準備したらいいんだろう」とお悩みの人、まずは市役所にご相談ください。

●農林課 (23-7705)

各種支援、就農相談、その他農業に関するお問合せ

●めぐみの農業協同組合 本店 営農対策課 (23-5885)

支援・相談の他、新規就農者向けの研修を実施しています。



育成中のイチゴの苗。9月頃、畑に植える予定